

はにい さわらないでね！ください 平成25年12月16日



園庭の隅に、黄色いバケツ。

「さわらないでね！ください」と書いてあります。「だ」が鏡文字のようになってます。まだひらがなはよくわからないけれど、一生懸命、書きました。

バケツの中には、砂がぎっしり入っています。そのうち、芽が出てくるのでしょうか。

いいえ、このバケツの中には砂しか入っていません。

どうして「さわらないでね！ください」なのか、それを知っているのは、この字を書いた子たちだけです。



さて、園舎の中に行くと、廊下には、ベッドも備えた小さな「病院」があります。手作り白衣の院長先生が、仲間の医師たちに指示を出しています。

「ギブス持ってきて！」

これはどうやら重症のようです。電話をかけました。

「もしもし、ドクターヘリをお願いします！」

カルテには、「いたいところ」の欄に「て」と書いてあります。この「て」も、まだ教わっていないひらがなで一生懸命書いた字です。

その下の「くすり」の欄に書いてあるひらがなは、どうやら「あまい」と読むようです。甘い薬を処方したようですね。

その薬もちろん手作り。プチプチ緩衝材を紙に貼って薬

になる部分の膨らみに色を塗ってあります。

薬の袋には「あさ1、ひる2、よる3」と書きました。必要なら数字も書きます。

必要があれば、知らない字も書く。ここでは、その「必要」は、友だちとの遊びの中で生まれるようです。「必要」は人とのコミュニケーションの中から生じています。

砂でいっぱい小さなバケツには、きっと楽しかった友だちとの時間が詰まっているのでしょう。

「さわらないでね！ください」